変化する慣性に関するNKTg法則

宇宙空間における物体の運動傾向は、その位置、速度、質量の関係によって決まります。

$$NKTg = f(x, v, m)$$

ここで：

- x は、基準点に対する物体の位置または変位です。
- v は速度です。
- m は質量です。

物体の運動傾向は、以下の基本的な積の量によって決定されます：

$$NKTg_1 = x \times p$$
$$NKTg_2 = (dm/dt) \times p$$

ここで：

- p は線運動量で、$p = m \times v$ で計算されます。
- dm/dt は質量の時間変化率です。
- $NKTg_1$ は位置と運動量の積を表す量です。
- $NKTg_2$ は質量変化と運動量の積を表す量です。
- 単位は NKTm で、変化する慣性の単位を表します。

2つの量 $NKTg_1$ と $NKTg_2$ の符号と値が運動傾向を決定します：

- $NKTg_1$ が正の場合、物体は安定状態から離れる傾向があります。
- $NKTg_1$ が負の場合、物体は安定状態へ向かう傾向があります。
- $NKTg_2$ が正の場合、質量変化は運動を助ける効果を持ちます。
- $NKTg_2$ が負の場合、質量変化は運動を妨げる効果を持ちます。

この法則における「安定状態」とは、物体の位置 (x)、速度 (v)、質量 (m)
が相互に作用し合って運動構造を維持し、物体が制御を失わずに固有の運動パターンを保つ状態を意味します。